授業充実に向けて

＜技術・家庭科＞　　県北教育事務所

新学習指導要領を踏まえて（福島県教育委員会Ｈ２３指導の重点より）

○　３学年間を見通した全体的な指導計画の工夫
○　学習した知識・技術を活用するなど、実生活との関連を図った問題解決的な学習の展開
○　実感を伴った理解を深める実践的・体験的な学習活動の充実
○　学習指導に生きる評価の工夫
○　言語活動の充実

「学び合いの充実」と「学びの習慣づくりの充実」のために

技術・家庭科は主に問題解決的な学習で展開していきます。課題把握、解決の見通し、課題解決、まとめ等の学習過程の中で、思考の共有や吟味ができる「学び合い」を考えていきましょう。

技術・家庭科は実生活と密接に結びついた教科です。学習したことを実生活で実践することも大事な学習です。今行っている学習内容を保護者に伝えるためにも、教科の通信等の工夫や作品等の紹介で、家庭と学校（教科）の連携を図りましょう。

○　技術・家庭科はそれぞれＡ～Ｄの内容構成になっており、すべての生徒に履修させるようになっています。特に技術分野は中学校で初めて出会う教科なので、最初に「材料と加工に関する技術」の内容を踏まえたガイダンス的な題材を入れて、3年間の見通しをもたせましょう。

指導計画例１

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第1学年	技術	題材	技術って何だろう？【5時間】					身の回りを整理する作品を【23時間】											
		項目	A(1)アイ					A(2)アイウ(3)アイ											
		指導内容	○ガイダンス ○生活や産業で利用されている技術 ○技術の進展と環境					○材料の特徴と利用方法 ○材料と加工に関する技術の適切な評価・活用 ○構想と製作図										○工 ○使 ○部	
	家庭	題材	自分の食生活を見直し、よりよい食【31時間】																
		項目	A(1)ア　B(1)アイ(2)アイ																
		指導内容	○ガイダンス ○栄養素の種類と働き ○魚、肉、野菜を使った基礎的な日常食の調理					○中学生の食生活と栄養－私の食生活振り返り大作戦！ ○自分の食生活の課題を解決 ○地域や季節の食材を生かし											
第2	技術	題材	目的をもって生物育成にチャレンジしよう！【11時間】					エネルギーを変換している機器や機構について学ぼう！【6時間】											
		項目	C(1)アイ(2)ア					B(1)ア											
		指導内容	○生物の育成に適する条件と育成環境 ○生物育成に関する技術の適切な評価・活用 ○生物育成に関する技術を利用した栽培、作物の管理方法					○生活の中のエネルギー変換 ○電気が家庭に送られるまで ○動力を伝える機構 ○エネルギー変換機器の構成											

○　指導と評価の一体化といわれるように、評価は単に成績をつけるためのものだけではありません。子どもたちに「わかった」「できた」と実感させるためにも、学習内容の目標、そのための評価、それを見とるための方法、手立て等を授業者自身がもつことが必要です。3年間の学習内容（題材）、指導計画が決まったら、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考事例」（国立教育政策研究所）等を参考に、普段の学習指導に生きる評価を実践していきましょう。

問題：ＡさんとＢさんは，６年前に同じ車種の自家用車を購入し，１年間に平均１万Km走りました。この車は，１ℓのガソリンで１０Km走ることができます。ガソリンは，現在１ℓ１３０円ですので，１年間に１３万円燃料費がかかっています。燃料費の出費を抑えるために，今の車より燃費のよいハイブリッドカーの購入（価格２００万円）を考えています。車を乗り換えた場合の燃料費の差額を，表計算ソフトを使って作成してみました。
２人はいろいろな情報（データ）を基に，Ａさんは車を購入せず，Ｂさんはハイブリッドカーを購入することにしました。２人はそれぞれどのような理由で判断したのでしょうか。それぞれの立場に立って理由を予想しなさい。

	現在乗っている車	ハイブリッドカー
燃費（ねんぴ）※１ℓで走る距離	10 Km／ℓ	20 Km／ℓ
１年間の燃料費	130,000 円	65,000 円
車の購入価格	―	200 万円

経過年数	燃料費の差額
１年	65,000 円
２年	130,000 円
３年	195,000 円
４年	260,000 円

回答例：ローン返済，一度に多額の出費，廃車することの環境への負荷，燃費，故障発生率，乗り心地，環境への負荷，安全性，心の満足度，新車の爽快感，給油の回数が多い，ガソリンが高騰する可能性 など

《工夫・創造の評価の例》
・ＡさんＢさんの判断理由を，社会的，環境的及び経済的側面の長所・短所を根拠に予想している。

国立教育政策研究所「評価規準の作成のための参考資料」より

○　技術・家庭科や美術科は題材を通して教科の内容を学習していきます。つまり、指導案等でも「のこぎりびきの仕方」などという学習内容を表すような単元名でなく、「○○の製作をしよう」という題材名で、題材を通してのこぎりびきなど刃物の使い方の技能等の学習をしていくようになります。その際、生徒の興味・関心、学校、地域の状況なども踏まえ、子どもにとって生活に結びつきやすい、イメージしやすい題材を考えることが大切です。下の題材事例等を参考に具体的な題材を考えてみましょう。

事例１　技術分野「ズームイン！私の学校紹介ＣＭづくり」（第１学年）

事例２　技術分野「使う人が喜ぶ製作品の設計・製作をしてみよう」（第１学年）

事例７　家庭分野「工夫しよう安全で快適な住まい方」（第３学年）

事例８　家庭分野「考えて選ぼう生活に必要なもの」（第２学年）

国立教育政策研究所：**【評価規準の作成のための参考資料】より**

新学習指導要領の完全実施（中学校）を来年度に控え、技術・家庭科の年間時数は各学校により少なくなっているところもあります。（選択教科の削減により）各学校では免外による指導も出てくるため、年間指導計画など教育課程の編成や、普段の授業で苦労されるところもあるでしょう。今後は教育課程の編成も始まります。来年度の新学習指導要領の完全実施に備え、『平成 23 年度学校教育指導の重点（福島県教育委員会）』や『平成 23 年度「生きる力」をはぐくむ教育活動の展開（県北教育事務所）』等を参考に、教育課程の編成や授業改善に生かし、よりよい教育活動に取り組んでいきましょう。